

八島温泉を訪れて

堀内 晴

シシウドという植物は、最後に花を咲かせて枯れるという。温泉の地面には枯れたシシウドと、新しく伸び始めたシシウドがたくさんあった。また、鹿が角を研いだ跡や、動物のふんなども数多く見つけることができた。

それぞれ生き物が、それぞれの一生を生きている。姿は見えないけれど、たくさん生き物の息づかいが感じられる。人間以外の気配がない都会との、大きな違いだ。

しかしそんな八島温泉も、かつて人間が草をかり手入れをしていなければ存在していなかったという。人の力があつたからこそ生きられる自然もある。自然を守るためには人が関わらないほうが良いと感じていた私には、新鮮な発見だった。

いや、そもそも自然を守るといって考え方がおかしいのかもしれない。自然と共に生きてゆきたい。自然の営みに私たち人間も加わることができたなら、なんと光栄なことだろう。

別世界の中で

黒川千絵乃

私は五月十八日から三日間、諏訪にフィールドワークとして訪れた。その三日間の中で諏訪大社や御田街商店街を訪れたり八島温泉でハイキングをしたりと、様々な体験をすることができた。

その中でも一番印象に残っているのは、人情あふれる街並みである。諏訪大社では本物の「歴史」を全身で感じとれた。昔からの根強い信仰

つなげよう「みたまち文庫」

河西 静香

「みたまち文庫は、お店にある小さな図書館です。私たちは、この小さな図書館の、大きな大きな広い世界を感じた。

御田町商業会青年部が立ち上げたこのプロジェクト。多くのお店の協力により続いているという。本という「もの」を通して人と人がつながる。そしてその人と人とのつながり

やわらかな空気

柴田羽乃香

先日、合宿で諏訪地方を訪れ、八島温泉でハイキングをした。そこですごく驚いたのは、都会との空気感の違いだった。耳をすませば聞こえてくる葉と葉のこすれる音、カエルの鳴き声、そして一面に広がる緑とやわらかな風のかおり。全てが諏訪の歴史が生んだ財産であり、自然がつくり上げた自然であるのだと感じたいと強く思った。

この場所では、想像もできないくらい昔から、ゆつくりと流れる時間の中で動物や植物が命をつなげるための試行錯誤を繰り返してきている。そのことを思った時、常に時計を見ながら断片的な時間をすごしている私は諏訪の自然たちとは正反対の生活をおくっているなと感じた。

諏訪の長い歴史から見ればほんの少しの時間かもしれないが、八島温泉、そして諏訪の「結ばれていく時間」を感じることができた。また訪れたいと強く思った。

素敵なおせっかい

坂口こころ

私たちお茶の水女子大附属高校の一年生は、五月十八日から二泊三日の合宿で諏訪を訪れました。私は、合宿中に行つた御田町商店街付近のフィールドワークが特に印象に残っています。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ①

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年合宿で諏訪地方を訪ねた。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。

生きる力

篠木佐和子

先日、学校行事で長野県諏訪地方にある霧ヶ峰を訪れた。新田次郎の小説「霧の子孫たち」で読んだ場所だったこともあり、大変興味深く散策することができた。

生きていくには、自分自身の在り方、生き方を考え直す良い機会となった。

生きていくには、自分自身の在り方、生き方を考え直す良い機会となった。